

**井吹西**  
**防災福祉コミュニティ**  
**地域おたすけガイド**  
**(井吹西地区防災計画)**

平成31年1月  
井吹西防災福祉コミュニティ

## 地域おたすけガイドとは？

- ▶ 『地域おたすけガイド』は、井吹台西町地区の皆さんが、災害時にどのような活動をするかを示したガイドブックです。

### <地域おたすけガイドの構成>

おたすけガイド本編	活動指示書 (マニュアル)	参考資料
<p>【災害発生前】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・主に本部や自治会等で保管・内容を確認しておく。</li></ul> <p>【災害時】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・チェックシートの手順を踏まえながら活動を行う。</li></ul>	<p>【災害発生前】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・数部コピーしておく。</li></ul> <p>【災害時】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各担当者に配布する。</li><li>・各担当者は活動指示書を見ながら活動を行う。</li></ul>	<p>【今後定期的に確認】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域おたすけガイドを更新したり、防災活動に取り組む際に、検討・実践すべき内容等をまとめたもの。 (ワークショップで出てきた意見等)</li></ul>

## 活動にあたって留意すること

- ・ 周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、慌てず、無理をせず、自分達のできる範囲で防災活動を行いましょう。
- ・ 安全を確保するためにも、できる限り複数で行動しましよう。
- ・ 地域おたすけガイドは、あくまでもマニュアル（ベースになるもの）ですので、災害の状況や場所に応じて、その都度考えて行動しましよう。
- ・ 危険を感じたときは、すぐに周囲に助けを求めましよう。

# 1 運営本部の設置基準

災害の種類	設置基準
地震	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震度 5 弱以上の場合</li> <li>・地震による被害が拡大する恐れがある場合。</li> </ul>

# 2 役員参集場所等一覧

本部	井吹西地域福祉センター				
各地域の 一時避難場所	【1 丁目】 井吹台谷口公園、 西井吹深谷公園、 西井吹竹谷公園、 カインズ前駐車場、 井吹台中学校	【3,4 丁目】 井吹西小学校、 西井吹深谷公園、 西井吹丘の谷公園			
	【5 丁目】 井吹西小学校	【6 丁目】 井吹建山公園、 西井吹小池谷公園			
緊急避難場所 (屋内・屋外)	名称	※災害毎の注意事項		備考	避難所
		土砂	洪水		
	井吹西小学校	○	○	—	○
井吹台中学校	○	○	—	○	
防災資機材庫	西井吹深谷公園				
耐震防火水槽	市営西神南住宅				
防災行政無線 保有者(ラジオ型)	防災福祉コミュニティ委員長		防災福祉コミュニティ副委員長		

※耐震防火水槽は西神南住宅にあり（ポンプなし）

■防災資機材一覧表

<資機材庫（西井吹深谷公園）>

用途	NO	品名	在庫数
消火用	01	消火器（訓練用）	10本
	02	消火器（強化液）	3本
	03	布バケツ	10個
	04	自立式 簡易水槽	1個
	05	消火訓練用 オイルパン	3個
	06	消火栓ホース	1式
救助用	01	スコップ	8本
	02	バール	3本
	03	折りたたみ鋸	8本
	04	オノ	1本
	05	ハンマー	5本
	06	簡易ジャッキ	2機
	07	ツルハシ	5本
	08	ボルトクリッパー	2本
	09	折りたたみ担架	2台
	10	油圧式コンクリートクラッシャー	1式
	11	救助用ロープ	1巻
	12	可搬式ウインチ	1機
	13	チェーンソー	1機
その他	01	ヘルメット	24個
	02	皮手袋	10双
	03	携帯用 電灯	3機
	04	サルベージシート	10枚
	05	台車	2台
	06	コードリール	1個
	07	オイルス ミニコンプレッサ	1式
	08	収納庫（箱型）	1個
	09	収納庫（防災倉庫）	1個
	10	かまどセット	2個

<井吹西地域福祉センター>

NO	品名	在庫数
01	腕章	30枚
02	救急セット	1式
03	トランジスタ メガホン	3個
04	広報訓練用拡声器	1機
05	トランシーバ	2台



# 井吹台西町 地域おたすけガイド 防災マップ

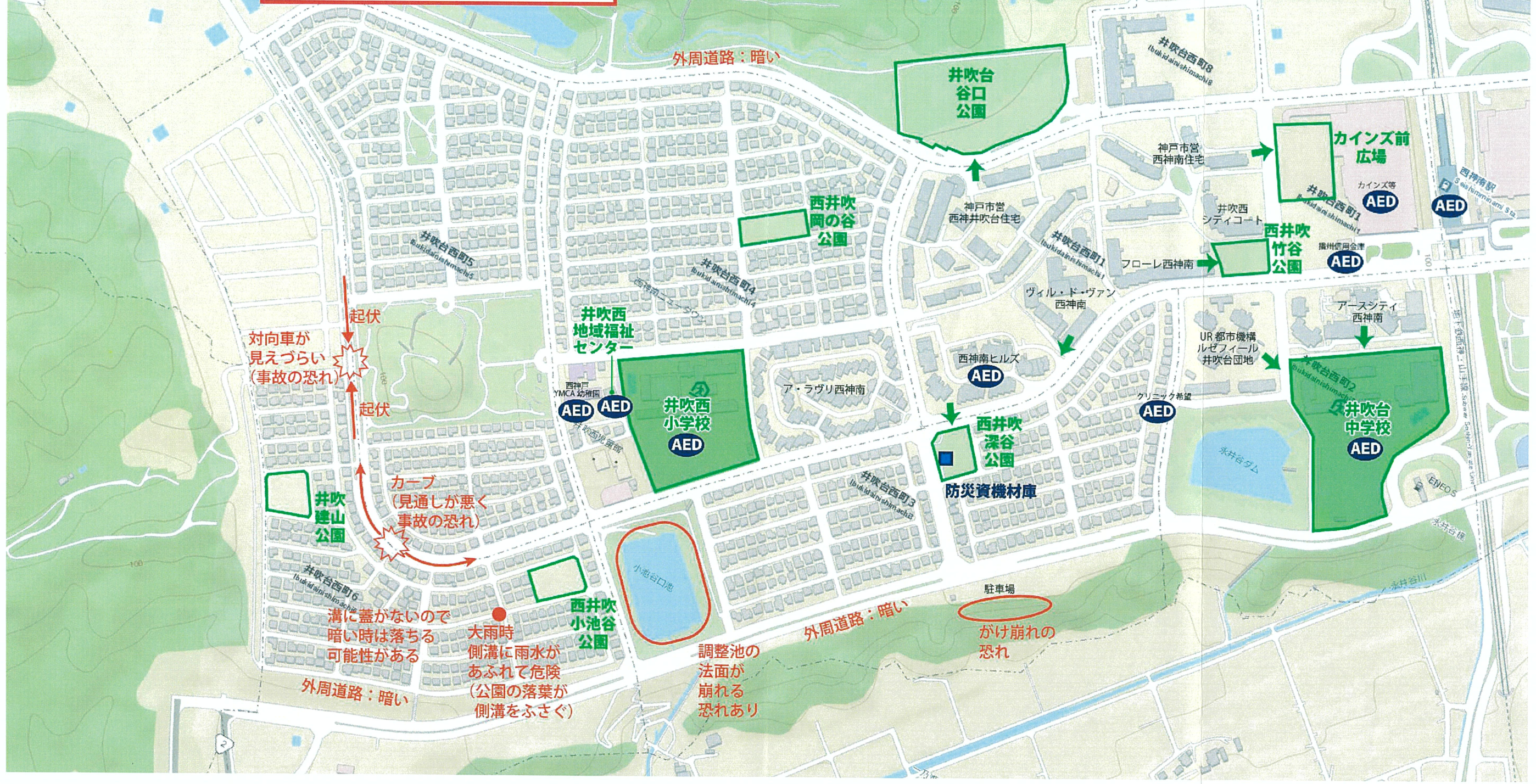
■ 一時避難の場所

1丁目	マンションによつて一時避難場所は異なる → 地図上に表記
3,4丁目	井吹西小学校 西井吹深谷公園 西井吹岡の谷公園
5丁目	井吹西小学校
6丁目	井吹建山公園 西井吹小池谷公園

- <被害の可能性>
- ・ 停電、水・ガスが使えなくなる
  - ・ 火災が起こるかもしれない
  - ・ 機械式駐車場が出入庫できない
  - ・ ロボットゲートが開かない
  - ・ 高層階建物の揺れが大きい
  - ・ エレベーター停止、落下物・倒壊
  - ・ 道路の不通
  - ・ 医療の不足 (けが人・急病等への対応)
  - ・ 食糧の不足
  - ・ 情報のやりとりの困難

- <危険なところ(地域全般)>
- ・ 街路樹・電柱・信号機・街灯・各家庭の庭木：倒れる恐れあり
  - ・ ガス管：破裂の恐れあり
  - ・ 外周道路：暗い
  - ・ 蓋のない側溝：暗い時は落ちる可能性がある

- <資機材等の協力が得られそうなところ>
- ・ 学校の用務員用品
  - ・ カインズのDIY用品
  - ・ 個人の家の工具・道具
  - ・ 集合住宅の管理室・倉庫等の工具・道具
  - ・ マキとして活用できるベンチ(集合住宅)





### 3 災害時の活動手順

災害直後から数時間後まで



地震発生

<本部の活動>

**本部** 井吹西地域  
福祉センター

情報等を  
密にやりとり

<各地域での活動>

**各地域の拠点**

各地域一時避難場所

- (1) 防コミ運営本部の立ち上げ
- (2) 情報収集・伝達

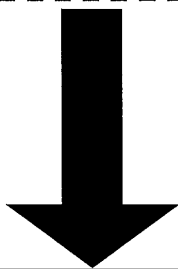
- (1) 安否確認



- (2) 消火活動

- (3) 救出・救護

- (4) 災害時要援護者の避難支援



発災数時間後から3日(72時間)くらいまで

<本部の活動>

- (1) 役割分担の見直し

- (2) 生活情報の収集・周知

- (3) 避難所の運営

<各地域での活動>

- (4) 防火・防犯パトロール

## 災害直後から数時間後まで

### 3-1. 防コミ運営本部で行うこと

#### (1) 防コミ運営本部の立ち上げ

- 集まったメンバーで本部（井吹西地域福祉センター）を立ち上げる。
- 本部に駆けつけたメンバーの中からリーダーや班構成を決める。

・ 参集：ふれあいのまちづくり協議会役員のほか、  
本部に集合できる人

・ 班構成：

班	担当者 (責任者と副責任者2～3名で構成)
① 情報収集班 (安否確認も兼ねる)	
② 救出救護班	
③ 備品班	

- 本部に必要な準備物を配置する。

#### <準備物>

情報入手・ 伝達する	<input type="checkbox"/> 自転車（できればパンクレス） <input type="checkbox"/> 充電設備 <input type="checkbox"/> ラジオ（手動電源のもの）
情報等を 記録する	<input type="checkbox"/> 地図（白地図・住宅地図）、防災マップ <input type="checkbox"/> ホワイトボードまたは模造紙（情報共有のために記録） <input type="checkbox"/> テープ <input type="checkbox"/> 付箋 <input type="checkbox"/> 地域おたすけガイド（各地域の拠点にも配置）

## (2) 情報収集・伝達

【注意】情報は模造紙・ホワイトボード等に時系列に記録していく

- 通信手段から情報を入手する。

通信手段	ラジオ、携帯電話など
入手する情報	気象、交通、物資、行政の動き、 医療関係者、ボランティア等の派遣情報

- 行政との情報のやりとり（情報入手・情報伝達）

各種機関	消防署（☎ 078-961-0119） 区役所、社会福祉協議会（☎ 078-929-0001）
通信手段	携帯電話、公衆電話、防災無線

- 各地域の拠点との情報のやりとり（情報入手・情報伝達）

通信手段	携帯電話、自転車、公衆電話
入手する情報	被害情報（火災・倒壊・危険箇所） 安否情報（ケガ人等助けの必要な人の情報）
住民等に伝達 する方法	本部での掲示、拡声器、自転車、 ↓

<本部での掲示例：安否確認> “情報は時系列に整理する”

情報日時	エリア	安否確認結果（人数等）
.....	.....	.....
.....	.....	.....
.....	.....	.....

**参考** 被災地域の人々のために無料開放される公衆無線 LAN サービス  
(公衆 Wi-Fi) **00000JAPAN**

ただしセキュリティーに注意！



## 3 - 2. 各地域の拠点で行うこと

### ～各地域の拠点での取り組み～

- 各地域の拠点で、各自治会・マンション等の活動経過や問題点（人員・道具の不足等）を把握し、防コミ本部に報告・協力要請等をする。
- 住民等に必要な情報を伝達する。

防コミ本部通信手段	携帯電話、自転車
入手する情報	被害情報（火災・倒壊・危険箇所） 安否情報（ケガ人等助けの必要な人の情報） 救出救護活動の状況（人員・道具の不足等はないか）
住民等に伝達する方法	拡声器、掲示板への貼り紙

#### **（１）安否確認** **活動指示書(安否確認)**

- 自治会役員（班長）・マンション理事が中心となって、民生委員等と協力しながら、安否確認を行う。
- 安否確認結果を記録し、まとめて本部に報告する。

#### **（２）消火活動** **活動指示書(初期消火)**

- 出火場所と出火の状況を確認する
- 消火できそうならば、人員を確保し初期消火を行う。

#### **（３）救出・救護活動** **活動指示書(救出・救護)**

- 人員・道具を集めて、救出活動を行う。
- 安全な場所に移動し、救護（応急手当）をする。

## (4) 災害時要援護者の避難支援

活動留意書(災害時要援護者の避難支援)

- 自宅の損傷の状況等により、避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う。
- 支援者の割り振りをする。

参考：災害時要援護者とは？

災害が発生した場合に、安全な場所に避難したり、避難所での生活において困難が生じて、まわりの人の助けを必要とする方。

<例>

1. 一人暮らしの高齢者
2. 寝たきりの要介護高齢者
3. 認知症の疑いのある人
4. 視覚障がい者
5. 聴覚障がい者
6. 言語障がい者
7. 在宅人工呼吸器使用者

その他にも、人工透析を受けている等疾病を抱える人や、災害時に怪我等を受けた人、外国人や妊産婦・乳幼児等が考えられる。本人や一緒にいる人の意見を十分聞きながら、必要な支援を行うこと。

## 発災数時間後から3日(72時間)くらいまで

### 3-3. 数時間後から行うこと

#### (1) 役割分担の見直し

- 防災福祉コミュニティの役員の集結状況や災害の状況に応じて役割を見直す。

#### (2) 生活情報の収集・周知

- 生活情報を収集し、住民へも周知する。

#### (3) 避難所の運営

- 学校関係者・区役所職員、災害ボランティアと協力して避難所を開設、運営する。
- 避難者名簿を作成する。
- 避難所運営に必要な備蓄品・給水を確認する。
- 災害時要援護者への配慮（要援護者ご本人やご家族の意向を踏まえ、避難所内に一般の方と分けした要援護者のための福祉避難室を設けるなどの対応：保健室の利用など）  
※特に、知的や精神、発達障がい者のうち、集団生活に対応することが困難な方、透析患者やオストメイト（人工肛門など）などの内部障がい者について、特別な配慮が必要であることを、他の避難者に理解していただくことが大切。
- 女性や子育て家庭、同行避難してきたペット等にも配慮する。
- 福祉避難所（井吹西地域福祉センター）を必要とする方について、避難所を巡回する市の保健師へつなぐ。

参考：福祉避難所とは？

災害時の避難所での生活において、何らかの特別な配慮を要する方々のために、市が二次的に開設する避難所。

福祉避難所に直接避難することはできない。

まずは避難場所に避難し、避難所を巡回する市の保健師等へつなぐ。

#### (4) 防火・防犯パトロール

- パトロール班を結成し、交代で地域内のパトロールを行う。



# 安否確認

## 主な役割

1. 安否確認を行う。
2. 安否確認結果を記録し、まとめて本部に報告する。

## 取り組み手順

**民生委員等と協力する！  
班長・理事等に任せっきりにせず、  
皆で確認しあう！**

### 1. 安否確認をする 自治会

- ・近隣や班長等が中心となって、安全な人を確認する。
  - ・外に出てきた住民同士で列毎に確認する。
  - ・一時集合場所で点呼をする。
- ・不明な人については、各戸訪問して確認する。

### マンション

- ・住民がドアにシールを貼り、シートを管理棟・玄関ホールに提出する。
- ・未提出者は、理事等が確認に行く。

### 2. 安否確認結果を地図に記録する。

### 3. 助けが必要な人、安否不明者の情報を自治会・マンション単位でまとめて、本部に報告する。

## 安否確認をする際の手順（留意点）

1. 建物の被害等を確認（外観確認）
  - ・建物に甚大な被害がないか確認する。
2. 以下の手順で安否状況を確認する
  - 1) 大きな声で呼びかける
  - 2) ドアをたたく、呼び鈴[注:停電時は鳴らない可能性あり]をならす
  - 3) 可能ならばベランダ側からも確認する
  - 4) 近所の人等にも確認してみる（外出の可能性等）

# 初期消火

## 主な役割

1. 出火場所と出火の状況を確認する。
2. 消火できそうならば、人員を確保し初期消火を行う。

## 取り組み手順

### 1. 出火場所と出火の状況を確認する

- 1) 出火場所と出火の状況を確認する
- 2) 消火活動人員を割り振る（3～4人のチーム体制）

危険と思ったら  
すぐに逃げる！

### 2. 初期消火を行う（延焼の恐れがあるときは隣家に散水）

- ・消火器を使って消火する。

**消火器の場所** 集合住宅・店舗、学校、防災資機材庫等

- ・バケツリレーやホース等を使って消火する。

**バケツ・ホース等のある場所** 各家庭、防災資機材庫

## 消火活動でホースを利用する際の留意点

### 1. 消火用水の選定

- ・火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側の消火用水を使うなど風向きに注意する
- ・ポンプから水面までの高低差（目安）  
C級：7m以内 D級：4m以内

### 2. ホースの延長の注意点

- ・道路・建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ・引きずりを避ける
- ・ホースの結合は漏水しないように確実に行う

### 3. 送水の時期

- ・ホースの延長状況を確認し、筒先担当の『放水はじめ』の合図の後、放水する。
- ・放口コックを開けるときは、筒先の反動力に注意し徐々に行う。

# 救出・救護

## 主な役割

1. 人員・道具を集めて救出活動を行う。
2. 救護(応急手当)をする。

## 取り組み手順

### 1. 人員を集める

- ・救出活動人員を割り振る（3～4人のチーム体制）
- ・専門職（医療従事者・技術職）がいないか声かけもする。

### 2. 道具を集めて救出する

**防災資機材倉庫場所** 西井吹深谷公園

**道具のある場所** 各家庭・車の工具、学校用務員室や集合住宅管理室等、ホームセンターのDIY用品等

### 3. 安全な場所に移動し、救護（応急手当）をする。

- ・できる限り安全な場所に移動する（さらに移動が可能ならば学校保健室や医療施設へ）。

## 救出・救助の手順

### 1. 被害状況を把握する

- 1) 倒壊建物に残されている人の状況を確認する
- 2) 建物の倒壊状況、内部に進入するスペースがあるかを確認する
- 3) 二次災害が発生する要因がないか確認する。

### 2. 二次災害の防止（被害が拡がらないようにする）

**【注意】人の声や姿が見えても、焦らない！ 安全を第一に！**

- 1) 木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する
- 2) 柱、梁等の大きな物の周辺の物を取り除くときは、ロープ・角材等で支えて固定する（大きな物がずれたり、倒壊しないため）
- 3) 火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する  
ガスの元栓や電気のブレーカーは早く閉止や遮断する

### 3. 要救助者の救出と応急手当

- 1) 要救助者の近くまで掘り進んだ後は、資機材を使わずに手作業にする。
- 2) 要救助者を無理に引き出そうとしない。
- 3) 出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。



# 災害時要援護者の避難支援

## 主な役割

避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う

### 避難支援のポイント（例示）

1. 一人暮らしの高齢者
  - ・ 迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認や状況把握が必要。
2. 寝たきりの要介護高齢者
  - ・ 避難時は、車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。
3. 認知症の疑いのある人
  - ・ 安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要
4. 視覚障がい者
  - ・ 音声による情報伝達や状況説明が必要。  
避難誘導等の援助が必要。
5. 聴覚障がい者
  - ・ 補聴器の使用や、文字・絵図や手話を使った情報伝達、状況説明が必要
6. 言語障がい者
  - ・ 筆談、手話等で状況を把握することが必要
7. 在宅人工呼吸器使用者
  - ・ 避難所での電源確保が必要。

その他疾病を抱える人、  
外国人や妊産婦・乳幼児等、  
本人等から十分意見を聞いて  
必要な支援をすること！

## 参考資料：ワークショップで出てきた意見

### <今後の対策>

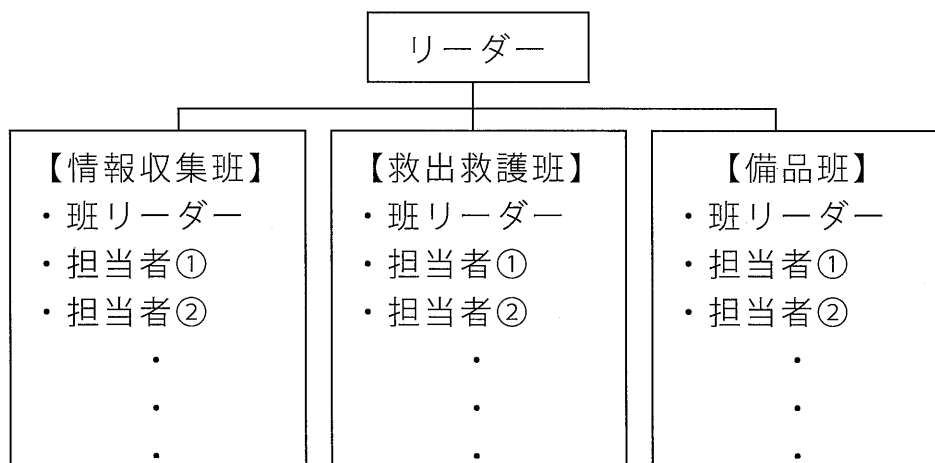
#### (1) 防災福祉コミュニティ・各自治会や管理組合

① 連絡体制を整える。

- ・各自治会と本部（防災福祉コミュニティ役員）が相互に連絡がとれるような体制づくり。

【取り組み】・必要な連絡ツールを整えておく（パンクレス自転車等）

- ・組織図・担当者名簿を作成しておく  
（本部・各地域／担当別）



災害時には事前に決めていたリーダーや担当者が不在であったり、怪我をして動けない場合もあるので、組織図・担当者名簿を基本としながらも、臨機応変に活動できるようにしておく！

② 消火や救護等に役立ちそうな設備の使い方等を知っておく。

【設備】・屋内消火栓

- ・消火器
- ・A E D

【使い方等を知る工夫】・使い方（図解）を貼る。

- ・定期的に訓練を行う。

③ 近隣の人を知っておく。

- ・民生委員等と協力して高齢者の実態
- ・医療関係者や技術職等の専門職

## (2) 個人・家族単位

- ① 被害を拡大させない方法（火事にならない方法）を確認しておく。
  - ・ガスの元栓とブレーカーを落としておく。
  - ・車両を外へ移動しておく  
(集合住宅はロボットゲートの解錠方法も把握しておく)。
  
- ② 家族や近隣と安否確認ができるような連絡体制をつくる
  - ・複数の安否確認の方法をつくっておく。  
(災害用伝言ダイヤル、携帯電話にメールアドレスや電話番号を登録しておく、家族の避難後の集合場所を決める)
  - ・両隣に限らず、自治会・管理組合内等の誰かと知り合っておく。  
できれば連絡先を交換しておく。
  
- ③ 情報収集の方法を確認しておく（地域おたすけガイド作成時点）
  - ・ひょうご防災ネット (<https://bosai.net/> お知らせメールの事前登録もあり)  
災害発生時等の緊急時に、緊急気象情報（地震、津波、気象警報、特別警報、土砂災害警戒情報、河川洪水予報、竜巻注意情報等）や避難情報等を入手できる。外国語にも対応している。
  - ・ご近所 SNS 掲示板「マチマチ」（事前登録が必要）  
近所の半径1kmから10km以内に住んでいるユーザー同士がご近所さんとしてコミュニケーションをとれる仕組み。